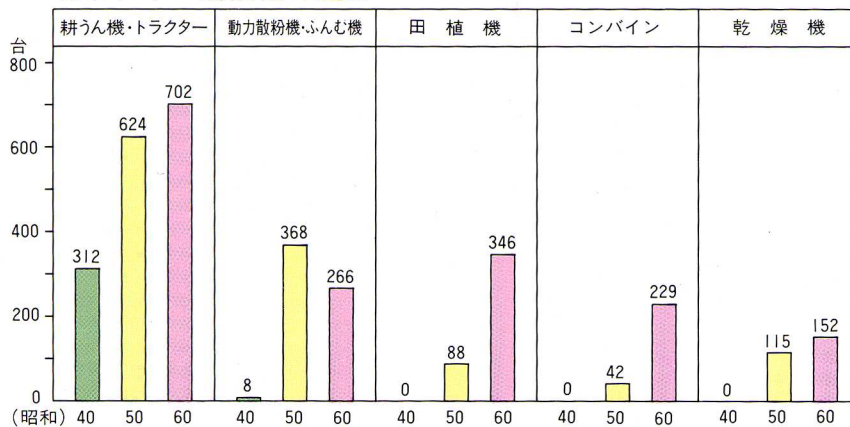


### 機械化の進行と農家人口の減少

昔の農作業は、人びとの手によるもので、人数が必要でしたし、楽ではありませんでした。しかし、耕地面積の増加と共に機械化が進み、昭和45年頃から田植機・コンバイン・乾燥機が次々と使われるようになってきました。また、機械化が進むとともに農業のあり方も、自給自足から販売農業へと大きく変わってきました。(資料1)

農作業が機械で行われるようになると、作業が楽になり人手も昔ほど必要でなくなりました。それで、農業からの収入とそのほかの仕事から収入を得る兼業農家が増えてきました。(資料2)

(資料1) 機械化の進行



(資料2) 専業農家の減少と兼業農家の増加 (農林業センサスより)

